

パソコン講座運営を通じた、学生スタッフの学びと成長について

東浦祐太*1・駒水麻由*2・松岡直*3
Email: higashiura@coop.kadai.ne.jp

- *1: 鹿児島大学生協同組合
- *2: 鹿児島大学水産学部水産学科
- *3: 鹿児島大学工学部建築学科

◎Key Words パソコン講座, 学生

1. はじめに

鹿児島大学生協同組合では、4月中旬から7月中旬にかけて、鹿児島大学の新生を対象に、大学生活に必要なPCスキルを教える講座（以下、パソコン講座）を開講している。

パソコン講座の受講生は全て鹿児島大学の1年生であり、その人数は381人（開校時：410人）である。それに対して、スタッフは全て2年生以上の鹿児島大学の学生で構成されており、その人数は14人（3年目：1人、2年目：1人、1年目：12人）である。

受講生は受講する時間を自分で決めことができ、毎週同じ時間帯に受講する。同じ時間帯で受講する受講生で少人数のグループを作り、複数のグループで講座を行う。講座は講師役のスタッフが進行し、各グループにはスタッフが1人ずつTA (Teaching Assistant) として付き、受講生の補助をする。各回の講座は、1人の講師と複数人のTAによって運営される。

パソコン講座の新スタッフの募集・採用のための活動は7月から行い、面接合格後は夏休み明けの10月から3月まで準備・研修を行い、4月から7月の講座本番に備える。

本発表では、昨年度のパソコン講座を受講していた学生が、2017年7月の面接合格から2018年7月の講座期間終了の1年間の間に、パソコン講座の準備・運営を通して得た学びや成長、変化について、実体験を基に実践報告する。

2. スタッフの活動内容について

2.1 準備・研修

10月から3月の期間は、パソコン講座運営のための準備と、スタッフのための研修を行った。

パソコン講座内で講師が使用するスライドや、受講生に配布する資料は、全てスタッフが作成した。

研修では、実際の講座で使用するスライドや配布資料を用いて、各スタッフに受講生の役またはスタッフの役を設定し、ロールプレイ形式で模擬講座を行った。模擬講座後はスタッフ内での振り返り・フィードバックを行った。

また、定期的に会議を開き、準備・研修の進捗状況の確認などを行った。

2.2 講座の運営

4月から7月の期間は、パソコン講座を開講した。週ごとに異なる内容で、期間内に全11回分の内容を行った。受講生が授業の無い時間帯に受講できるよう、大学の授業と同じ時間帯に、各回90分間、週5日間で21コマ開講した。

各曜日の最後の講座終了後に、その日の振り返りを30分程度行った。また金曜日の講座開始前には、その週の振り返りを、受講率や受講生のアンケートを基に行い、翌週の講座の改善を行った。

3. スタッフの実践報告

3.1 松岡さんのケース

パソコン講座スタッフになろうと思った動機は楽しそうだし、お給料がもらえて、PCスキルが身につくならやってみようというものだった。

研修が始まり、他のスタッフと会う機会が増えていくにつれて、スタッフ同士の仲も良くなり、模擬講座の雰囲気も良くなった。今まで言いにくかった意見も、スタッフ同士で指摘し合ったり、褒め合ったりして、パソコン講座がいい方向に進んでいくことを実感した。スタッフ同士の仲の重要性を感じた。

パソコン講座のスタッフになるまでは、話しかけるより話しかけられるほうが好きだったため、自分が受講生だったときは、スタッフから話しかけられることを待っていた。しかし、自分がスタッフとなったことで、受講生に話しかける立場になった。

模擬講座では、自分から話しかけることを意識したが、話題が思いつかず、思うように話せないこともあった。別のスタッフが話している様子の観察や、アドバイスももらうなどしたことで、自然体で話せるようになっていった。

講座本番では、受講生とも仲良くなり、自分から話しかけることはもちろん、受講生から話しかけられることも増えてきた。退屈そうな受講生に、自分から話しかけることから、スタッフになったことでの大きな成長を実感した。

3.2 駒水さんのケース

自分がパソコン講座のスタッフとして実際の講座を運営した初日の水曜日は、戸惑うことばかりだった。受講生とどう話したらいいか？ どのような風に受講生に教えれば

受講生にとってわかりやすいのか？初めてのことばかりで不安が募った。また、初日の水曜日に、自分の中でとてもショックなことがあった。自分が担当した受講生の中に、アンケートで“面白くない”と回答した受講生がいたのだ。自分なりに精一杯やろうとしたが、このような結果が出た。なんでだろうと何度も何度も考えた。

考えて出した仮説は、「自分自身が楽しんでいないのではないか」というものだった。わたしたちはそれぞれ、受講率の目標を本番前に決めた。わたしは、その目標に縛られすぎて、今いる受講生が来週来なくなったらどうしよう、楽しくないと思われたらどうしよう、と目の前の受講生にしっかりと向き合おうとしていなかった。どこか心の片隅に受講生に対する恐怖、不安があった。実際、受講生を前にして、その不安や恐怖でいっぱいになってしまっていたのかもしれない。

私はその後、パソコン講座のスタッフとして働いていく中で、“精いっぱい楽しむ”ということの方針にした。自分が楽しまなければ、受講生が楽しい訳がないと考えたからだ。

それから、2回目の水曜日が来た。アンケートは匿名であるため、1回目で“面白くない”と答えてくれた受講生は特定できないが、1回目に受講してくれた受講生はみんな2週目も受講してくれた。その講座の中で、私は精いっぱい楽しんでTAをした。

講座後、私はアンケートの結果を見るのが怖かった。しかし、2回目のアンケートを見てみると、自分が担当した受講生はみんな、次回も受講したいと答えてくれていた。とてもうれしかった。“精いっぱい楽しむ”ということ胸にスタッフとしてパソコン講座を運営したことで、受講生からの“楽しかった”というアンケートの回答につながった。

自分の気持ちの変化で受講生とのかかわり方、パソコン講座への向き合い方が変わった。楽しんで仕事ができるようになった。この変化をもたらしてくれた、受講生のアンケートは、他にも対応の仕方や、スライドについてなどたくさん気づきをもたらしてくれた。

4. おわりに

本発表では、2018年度パソコン講座スタッフの、学びや成長、変化について、一部のスタッフの実体験を基に実践報告した本校執筆時点では、2019年度パソコン講座の新スタッフの募集・採用のための準備を行っている。7月から開始する新スタッフの募集に向けて、全パソコン講座スタッフの学びや成長、変化について調査・分析を行い、新スタッフの募集に活用する予定である。パソコン講座スタッフになるための動機付けになることが期待される。